

木製道路施設の耐久設計・維持管理指針策定のための技術開発

1 中核機関・研究総括者

(独)森林総合研究所 神谷 文夫

2 研究期間

2004～2008 年度（5 年間）

3 研究目的

景観や地球環境に配慮した道路用木製防護柵（ガードレール）や木製遮音壁が開発されているが、木材はシロアリや腐朽菌による害を受けやすいため、適切な耐久設計法や維持管理方法の開発が課題となっている。そのため、これら木製道路施設の「耐久設計・維持管理指針（案）」を策定するための技術開発を行う。

4 研究内容及び実施体制

① 耐久設計・維持管理指針（案）の骨格の開発（宮崎県木材利用技術センター、（独）森林総合研究所）

耐久設計・維持管理指針に必要な事項を策定するとともに、開発された技術を盛り込んで、同指針の骨格を開発する。

② 劣化環境、腐朽度、性能劣化度の調査と解析（長野県林業総合センター、和光コンクリート工業（株）、宮崎県木材利用技術センター、群馬県林業試験場、（独）森林総合研究所）

既設及び新設木製道路施設の調査により、耐久処理方法、劣化外力、腐朽度、性能劣化度の相互関係を解明する。

③ 指針の具体化を図るために必要な技術開発（（独）森林総合研究所、宮崎県木材利用技術センター）

木製道路施設の環境に配慮した耐久設計・処理法と、定期点検及び非破壊的劣化度評価法の開発を行う。

5 目標とする成果

環境に配慮した耐久設計法や定期点検等の方法が開発され、木製道路施設の「耐久設計・維持管理指針」が確立される。これにより、自然素材である木材を使い景観に配慮した木製道路施設の設置が進むことが期待される。